

Title	現場採算制をとる大手ゼネコンの新規事業戦略とそれに伴う組織提案
Sub Title	
Author	辻正博(Tsuji, Masahiro) 大林厚臣
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2001
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2001年度経営学 第1700号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002001-1700">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002001-1700</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	大林厚臣研究会	学籍番号	80028568	氏名	辻 正博
(論文題名)					
現場採算制をとる大手ゼネコンの新規事業戦略とそれに伴う組織提案					
(内容の要旨)					
<p>ゼネコンを取り巻く外部環境は急激に悪化しており、既存の国内建設市場の将来展望も明るくない。その環境下では、新規事業（PFI や環境ビジネス）への進出が、ゼネコンの企業規模、企業価値を維持・発展するのに有効であると考えられる。</p> <p>ところが、ゼネコンは既存の建設事業を遂行するのに適した組織であり、新規事業部門では新規事業に適した組織が必要であると考えられる。</p> <p>本論文では、ゼネコンの既存ビジネスを行なう上での暗黙の前提（コンテキスト）を明らかにする一方、新規事業として PFI と土壌浄化事業を選び、主にインタビューによってそれらの性質を抽出した。そして両者の違いを比較検討した後、違いを埋めるための新規事業部門に対する組織提案を行なった。</p> <p>ゼネコンのコンテキストとしては、次の2つが抽出された。</p> <p>①コンストラクションマネジメント（CM）技術には優れているが、グローバルな競争を勝ち抜く上で重要な役割を演じるプロジェクトマネジメント（PM）技術が未成熟である。</p> <p>②現場採算制という社内管理会計制度に基づくシステムは、工事で利益を上げることに適しており、それがゼネコンに根付いている。</p> <p>PFI 事業の性質としては、PM 技術が重要であるとした。そして、既存事業には存在しない事業からの収入を追及することによって PM 技術を獲得できることを示した。すなわち、PFI 事業に対しては、収入源が一つという従来のコンテキストからの脱却が必要であり、それを実現するために、工事の利益と PFI 事業からの利益の双方を評価するシステムを導入することを提案した。</p> <p>土壌浄化事業のインタビューから、ゼネコンの分権組織においては、新たなビジネスの芽をみつけはぐくむために、ビジネスの芽が共有されやすい環境が必要であることが分かった。それを実現するインセンティブシステムの例として、</p> <p>①新アイデアを発表する場としての「インセンティブ付き部署毎電子掲示板」</p> <p>②新アイデアが利益になるシステムとしての「支店単位社内特許制度」</p> <p>の2つの方策を提案した。</p>					